

5月28日 使徒言行録2章1～11節 今日の説教から

説教題：「私たちだけではなく」

今日の個所では、ペンテコステのお祭りのために人々が集まっている時に驚くべき出来事が起きています。ここで、炎のような舌という「神様の霊」によって自分が話したことがない言葉を話し出す、聖霊降臨の出来事が起きたのですが、その時弟子たちは「一つになっていた」と記されています。

翻訳によっては「同じ家に一緒に居た」とも訳されるのですが、私たちが持つ新共同の聖書では「一つになっていた」と記されています。この言葉は聖書の中でほとんど使われておらず、もう一か所別の所で、ヨハネによる福音書17章22～23節、ユダの裏切りを予告した後の最後の晩餐における、イエス様の告別説教の中の言葉でのみ使われています。

そこでは、イエス様がこの世に来たのが、「弟子たちが完全に一つになるため」であったということが、そしてそれが実現した時に、神様がイエス様を遣わしたことを、そして人々に神様の愛が注がれていることを知るようになる、とイエス様は語っています。少なくとも私たちが見るこの翻訳では、弟子たちの思いがこの時イエス様の方向を向いて一つになっていたことが強調されています。つまり、今日の出来事が起きたのは、五旬節だからというよりも、この弟子たちが「一つになった」から、彼らのもとに聖霊が下ったのです。

そのように、聖霊を受けて弟子たちが行ったのは、「人々の母国の言葉」で福音を語るといふ、異言の奇跡でありました。弟子たちは聖霊に強められて、人間の力だけでは決して行うことの出来ない「異言を用いた宣教」と、それによって「世界への宣教」を始めていくのでした。このような出来事があって、今私たちの教会が、エルサレムから何千キロも離れたこの地で、2000年以上も後のこの時代で、イエス様に命じられた同じ業を共に担うことが出来ているのです。

私たちの所属する奥羽教区は、共に支えあう「一つの教会」として歩み続けることを大切にしてきました。そして私たち一人一人が、自分一人だけではなく、互いを支えあい、教会を支える一つの業によって、江刺教会もこの地で歩みを続けています。その一つ一つの教会が、奥羽の一つ一つの教会が、互いを支えあうことによって、一つの教会では決してなすことが出来ないような、この地での大きな宣教を担うことが出来ています。それを知るとき私たちは、私たちの信仰が自分一人のものではなく、神様が、特に神様の霊が私たちに力づけて、豊かに臨んでくれている事を知ることが出来るのです。

私たちは、自分一人だけで信仰を続けているわけではありません。そして、この江刺教会も、江刺教会だけで信仰を続けているわけではないのです。共に歩む兄弟姉妹の力に支えられて、共に歩む奥羽の一人一人と力を合わせて、そして何より、神様の霊に強められながら、私たちはこれからも歩みを続けていくのです。その喜びを胸に、今週一週間の歩みを、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：使徒言行録 2 章 1～11 節

- 1:祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。
- 5:さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者があり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もあり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」

ヨハネによる福音書 17 章 22～23 節

「あなたがくださった栄光を、わたしは彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。わたしが彼らの内におり、あなたがわたしの内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです。こうして、あなたがわたしをお遣わしになったこと、また、わたしを愛しておられたように、彼らをも愛しておられたことを、世が知るようになります。」